



陸上・日本インカレ

男子1500メートル

村山 2位



日本人学生歴代2位の記録

9月7日の3日間、埼玉県熊谷市の熊谷スポーツ文化園陸上競技場で日本学生陸上競技対校選手権大会(日本インカレ)が開かれ、男子1500メートルで村山純也(経営4)が日本人学生歴代2位となる3分39秒8のタイムを出し、1位入賞。男子1000メートルで山口竜哉(経営3)が5位入賞、男子400メートルでは、4位と惜しくも表彰台を逃した。

【短評】 吉田美咲
「知見を拓き、吉田美咲
こえる。2人とも必死の表情でゴール。村山は惜しくも優勝を逃したが、3分39秒は日本歴代9位の好タイム。もちろん、城西大学新記録だった。平塚は10位、松田は11位だった。」

村山
アジア大会を控えた村山は500メートル出場した。今年の春も1500メートルは走っており、今シーズン絶頂の走りか期待された。予選のラストは流すほどの余裕がみられた。決勝には村山に加え、松田司(経営4)、平塚祐介(経営3)も選手が推出した。村山は中盤の位置取りをし、徐々に先頭を引く位置に選手に近づいていった。ラスト1周に入ると、エリック・オムワンバ(山梨学院大)の一騎打ちに。ラストパートが持味の村山は勝負をかけるが、オムワンバは先頭をなかなか譲らぬ。会場も盛り上がり、村山への声援も聞こえてくる。

村山
オムワンバと騎打ち
アジア大会を控えた村山は500メートル出場した。今年の春も1500メートルは走っており、今シーズン絶頂の走りか期待された。予選のラストは流すほどの余裕がみられた。決勝には村山に加え、松田司(経営4)、平塚祐介(経営3)も選手が推出した。村山は中盤の位置取りをし、徐々に先頭を引く位置に選手に近づいていった。ラスト1周に入ると、エリック・オムワンバ(山梨学院大)の一騎打ちに。ラストパートが持味の村山は勝負をかけるが、オムワンバは先頭をなかなか譲らぬ。会場も盛り上がり、村山への声援も聞こえてくる。

山口 男子1000メートル5位

世界の経験 日本で生かす
追い風を捉え、絶好の風だった。1000メートル予選で城西大学新記録となる10秒28の自己ベストを出した山口。本人は自己ベストを出さずには帰って来なかったと言いが、大会後こう振り返った。「関東インカレの決勝で自己ベスト(10秒34)を出したときは、力で押し切ったくらいだった。しかし、今回は次の準決勝を見据えていた。安心感があり、リラックスして自分のレースができたと思う。」

男子400メートルリレー4位

お家芸 表彰台進出
鈴木侑明(経営2)、本間圭祐(経営4)、中沢史哉(経済4)、山竜哉(経営3)の4人で挑んだ400メートルリレー。4位という結果に、表彰台を狙っていたのにと全員が悔しさを表した。城西大学初の400メートルリレーは、ナショナルチームと同レベルのハンドパスを採用しており、精度の高いハンドパス技術が要求される。予選は日本のメンバーのベストタイムの30秒58をマークして1着でフィニッシュ、決勝進出を決めた。



400メートルリレーでハンドパスする本間(左)と中沢

村山 アジア大会 自己新5位入賞

韓国・仁川(フンチョン)で行われたアジア大会が9月27日、陸上男子5000メートルに出場した村山純也は最終のペーシングに対応して、ラスト1周まで先頭集団に付く走りを見せ、3分34秒57の自己新記録で日本人トップの5位に入賞した。大会後、村山に話を聞いた。
【市澤隆吉】
「アジアが混った国際大会での初代表。プレッシャーは、目標に向け頑張っつてほしいと思う。応援してくださった方々がどうでしたか。今後は女子ソフトボール部の応援もよろしくお願いします」と感謝の気持ちを表した。
4年生が抜け、新体制のチームは現在の3年生で19という少人数で活動している。
10月には第14回関東学生女子ソフトボール秋季リーグ戦、11月には第45回関東大学ソフトボール選手権大会が行われる。夏のインカレでの悔しさを忘れずに、先輩たちが達成できなかったインカレ優勝を目指して日々練習している。

ソフトボール 女子ベスト8

8月30日から9月1日にかけて、岩手県釜石市内の石巻やれあい運動公園で、文部科学大臣杯第49回全日本学生女子ソフトボール選手権大会(日本インカレ)が行われた。4年生にとっては最後の大会。これまでに集大成として、インカレ優勝という目標を掲げて臨んだ。しかし、優勝した東京国際大学に進々決勝で対戦して惜しくも敗れ、ベスト8という結果で終わった。
4年生引退した。主持だった対馬弥子(経営4)は「これから私たちは、全力で後輩たちをサポートする。後輩たちには、新たな自

硬式野球部 秋季リーグ 6位で1部残留 「守り勝つ野球」で上へ

抑えながら、相手投手の好投に阻まれ0対0の引き分けに終わった。
小原沢重頼監督は「来季は関東大会、さらその先の神宮大会を目標に定めて戦い抜くことを誓う。課題は接戦に打ち勝つ勝負強さ。少ない好機を確実にものにすることができると。そうすることにより勝ちが現実となる」と語る。
この試合のように小原沢監督が目指す「守り勝つ野球」ができれば、1部リーグで上位に食い込むことができるだろう。来季のリーグ戦の城西大の健闘を祈りたい。
【松岡遊史 西村健太郎】



野球部インカレ 西村健太郎監督

昨年は首都学生連盟の春秋リーグと並行してという屈辱的な結果に終わった。今年はその悔しさを糧にして、強豪東海大を除きチームには勝利する試合もあり、1部で対等に戦える實力を見せ今季春秋リーグではチーム中4位の成績を収めることができた。
秋季リーグは全14試合中4勝8敗で全8チーム中6位となり、1部残留が決まった。今季順位落とした原因としては、失点が多かったことが挙げられる。しかし、その中でも、9月14日の筑波大戦と10月1日の帝京大戦では上位チーム相手に接戦を演じた。筑波大戦では、投手の直球政策(現代政策4)の好投により、8回まで両チーム無得点の接戦だった。9回表に生井大(現代政策3)の三塁打の後、橋本賢太郎(現代政策3)の安打により1点を先制したが、裏の守りで点を奪われ勝利目前で接戦を落としてしまった。また、帝京大戦では直球が延長11回を7安打散球の無失点に

注目!城西人

日の丸背負う夢 マラソン個人で挑む

平塚慶介さん(経営学部4年)



経営学部4年生の平塚慶介さんは、箱根駅伝を目指して城西大学に入学した。しかし、力が足りず駅伝部への入部はできなかった。埼玉県庁職員で市民ランナーの川内優輝選手にアドバイスをもらい、マラソンを始めた。

しかし、マラソンは陸上競技経験者であっても難しいものだった。距離が長い分、ごまかしがまったく効かない。しっかりと走り込んでいると、いくら前半でタイムを稼げたとしてもいい記録は出ない。
初マラソンは惨敗。その悔しさから、2回目のマラソンでは良い結果を残すことができた。失敗しても、諦めなければ結果が出ることを強く感じた。2回目には、福岡国際マラソンの参加標準記録突破を目標に掲げ、8月の北海道マラソンに出場。しかし、夏のマラソンの難しさを痛感する結果となった。これまでのベストは2時間36分57秒。4回目となる12月のホノルルマラソンでは自己ベストを狙う。

平塚先生の指導に感謝

平塚先生による加圧トレーニングを練習に取り入れ、最後まで粘り強く走れる身体作りに助けてくれた。平塚先生について聞くと、「今の自分があるのは、すべて平塚先生のおかげ。マラソン経験の多い平塚先生から指導いただいたのはとてもうれしい」と感謝の気持ちを表した。
社会人のランニングクラブでコーチとしても活動している。社会人は、学生とは違い、仕事があるため練習時間が限られている。その中で、練習をこなし、自己ベストを出している。そんな社会人のメンタルの強さを感じ、とても刺激を受けているようだ。

最大の目標は、6年後の東京オリンピック。「現時点ではレベルの高い目標であり、達成できる確率は低いかもしれない。しかし、挑戦する権利は誰にでもある。まずは平塚先生とマラソンでいい勝負をしたい」と話す。「生涯現役で走りたい。観光も兼ねてマラソンを走るのも楽しさの一つ」とマラソンを心から楽しんでいる。
部活動に所属していなくても、高い目標に向かって一生懸命頑張っている学生が、身近にいることを知ってもらえたらうれしい。私も、もっと自分を高めていきたいと思う。
【関原彩貴】

Column 陸上競技 花形・マイルリレー

4人最高の状態で臨む難しさ

陸上競技の花形種目である1600メートルリレー(4x400、マイルリレー)は大会の最終競技として行われ、一番盛り上がる種目と言われています。昨年の日本インカレで、城西大学陸上部は創部以来初となる決勝進出を果たしました。決勝では7位と上位に食い込むことはできなかったものの、1年生2人を投入してのレースは次年度に向けての手応えを感じさせるものでした。来年こそと意気込んで望んだ冬期練習(2013年11~3月)ではピリオダイゼーション(トレーニングの計画表)を作成、期分けをしっかりと作

成し、やるべきことを明確化しました。特に若い学年の勢いが強かったため、いかに乳酸をエネルギーに変換して追い込み続けるかということに注目しました。
トレーニングの効果は春先から現れ始めました。佐藤孝太郎(経営2)が春の関東インカレで決勝進出を果たし5位入賞、堀井浩介(経営2)、加藤龍尊(経営2)の2人も大幅に自己ベストを更新し、させるものでした。来年こそと意気込んで望んだ冬期練習(2013年11~3月)ではピリオダイゼーション(トレーニングの計画表)を作成、期分けをしっかりと作



陸上競技部監督 千葉佳裕

でも世界では通用しないことを痛感させられた。半面、スパートを磨けばまた世界と勝負できると思った。
【結果についてはもう思うか。】
「メダルを獲得するのはを目標にしていたので、とても悔しかった。しかし、こういう国際大会で自己ベストを記録したことは、今後の大会でも記録を残していけるという自信になった」

PS Pharmacy×Sport

インフルエンザ予防接種 なぜ毎年? 変性しやすいウイルス 以前の免疫では守れない

急に寒い日が始まり、体調を崩した人も多いと思います。またこれから冬にかけて、インフルエンザウイルスが流行する時期です。予防接種を受けるなどの予防対策をする人もいるかと思われま。しかしなぜ毎年、毎年インフルエンザの予防接種を受けなくてはならないのか。1回で免疫がつかないのか疑問に思ったことはありませんか。
今回は少しその疑問についてもすこ

単に述べたいと思います。インフルエンザにはトリインフルエンザ、ブタインフルエンザ、新型インフルエンザA型、B型インフルエンザ、とさまざまな種類が存在します。ものすごく簡単に言いますと、元は一つのインフルエンザウイルスが変化してできたものなので、その性質からインフルエンザウイルスは自ら変化するタイプのウイルスです。
免疫とは感染を防ぐのではなく、自らの体

に侵入した病原体を排除する機能です。病原体を抗原と呼び免疫は抗原に対する抗体を作り抗原を排除します。しかし一つの抗原に対して一つの抗体が反応します。そのため変性しやすいインフルエンザウイルスなどは以前に作った免疫では体を守ることができないのです。ですから予防接種を受けても100%予防できるとは限りません。まずは第一に感染を防ぐことが大事なのです。【斎藤明彦】